

第625回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1. 千歳川遊水地群整備事業（晩翠遊水地）

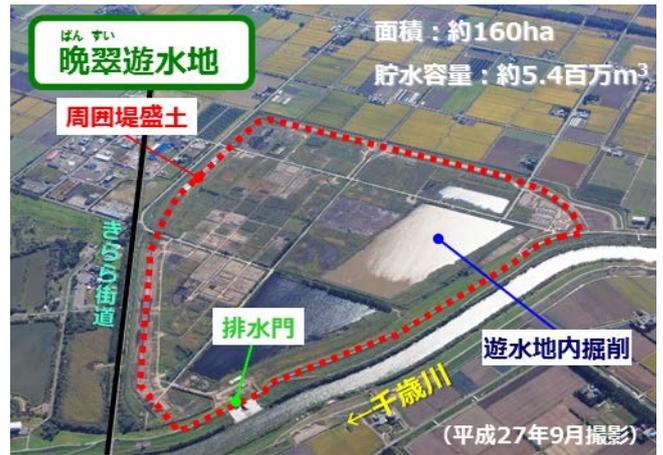
..... 空知郡南幌町

昭和56年8月の大洪水を契機に、千歳川の洪水時の水位を大幅に下げするため、石狩川の高い水位を水門により断ち、千歳川の洪水を放水路により直接太平洋へ放流する千歳川放水路計画を決定しました。しかしながら、この計画には様々な意見が出され、議論を経て千歳川放水路計画に代わる新たな治水対策である、「堤防強化（遊水地併用）案」を盛り込んだ千歳川河川整備計画を平成17年4月に策定しました。

千歳川の新たな治水対策は、河道の掘削、堤防の整備とあわせて、洪水時の水位上昇を抑えるために、遊水地群を流域4市2町の千歳川本支川の地先に分散して整備し、洪水被害の軽減を図るものです。遊水地群全体の面積は1,150ha、洪水調節容量は概ね5千万m³です。

千歳川遊水地群の整備にあたっては、平成20年度から用地取得等を開始。用地取得後は、遊水地内を通る道路等の移設補償を行うとともに、遊水地内の掘削工事や周囲堤の盛土工事等を進めています。遊水地群の一つである舞鶴遊水地（長沼町）は、平成26年度に完成、平成27年度から供用開始しています。遊水地群全体では、平成31年度完成を予定しています。

（視察キーワード：治水、景観等）



2. 国道337号 地域高規格道路（道央圏連絡道路）整備事業

..... 千歳市～小樽市

道央圏連絡道路は、高規格幹線道路と一体となって札幌圏の連絡機能を強化し、地域間交流の活性化及び国際的な交流拠点の新千歳空港、国際拠点港湾苫小牧港、重要港湾石狩湾新港への物流の効率化等の支援を目的とした延長約80kmの地域高規格道路です。

当該道路の整備により、道央都市圏の外郭環状道路として放射道路（国道等）と接続することで、札幌市内へ流入する通過交通の分散による交通混雑の緩和、物流拠点（空港、港湾等）と北海道縦貫自動車道や北海道横断自動車道との接続により周辺地域とのアクセス性が向上することに伴い、物流や人流の効率化による農業や観光等、様々な産業の活性化等が期待されます。

平成27年度末時点、現道活用区間（約13km）を含め約50km（約6割）が開通（4車線又は暫定2車線）しており、現在、残る約30km区間の早期開通に向け、事業（泉郷道路、長沼南幌道路、中樹林道路）を推進しています。

そのうち、泉郷道路（約8km）は、平成31年度（2019年度）の開通を目指し、現在、国土交通省が進めている「i-Construction^{※1}」の取組を全国に先駆け導入し、ICT土工^{※2}の第1号工事がスタートしています。

（視察キーワード：通過交通の分散、地域活性化、i-Construction、ICT土工等）



▲開通区間（新千歳空港関連）の利用状況

※1：ICTの全面的な活用（ICT土工）等の施策を建設現場に導入することによって、建設生産システム全体の生産性向上を図り、もって魅力ある建設現場を目指す取組

※2：平成28年度に新たに導入した技術基準や積算基準を適用し、施工プロセスの各段階においてICTを全面的に活用する工事

3. 厚幌ダム建設事業

厚幌ダムは、2級河川厚真川水系厚真川の北海道勇払郡厚真町字幌内地先に多目的ダムとして建設されます。ダム型式は台形CSGダムで、堤高47.2m、総貯水容量4,740万 m^3 、有効貯水容量4,310万 m^3 であり、治水、利水及び河川環境の保全を目的としています。

厚幌ダムのダム型式である「台形CSGダム」をダム本体に採用し既に完成したダムとしては、当別ダム（北海道）、金武ダム（沖縄県）の2ダムだけであり、3番目の完成を目指し現在、施工を行っています。厚真川流域では開拓以来、台風や前線による大雨で幾度となく洪水に見舞われ、多くの財産が被害を受けてきました。このため厚幌ダムでは、洪水調節、河川環境の保全、水道用



水の確保、かんがい用水の確保を主な目的として建設しています。洪水調節は、ダムサイトにおける計画高水流量730 m^3/s のうち340 m^3/s を調節し、ダム下流域の洪水被害を軽減するとともに、動植物の生息・生育環境を保全するため、既得用水の利用や動植物の生息しやすい河川環境を保全するために、かんがい期最大3.65 m^3/s 、非かんがい期最大1.30 m^3/s を確保するため、ダム下流へ補給を行います。また、厚真川周辺は、胆振地方有数の稲作地帯となっており、厚真川本流と支流の河川水は、かんがい用水として広く利用されていますが、生産性の向上と農業経営の安定化を図るため、勇払東部地区の水田2,989haに対し、最大12.663 m^3/s （平均8.142 m^3/s ）のかんがい用水の取水を可能とします。水道用水の供給では、現在、厚真町は、厚真川と軽舞川の表流水や井戸水を水源として給水しています。近年では、公共下水道の整備による水洗トイレ化や、苫小牧東港へのフェリーの寄港数が増えるなど、使用水量の増加が見込まれています。このため、安全で安定した新たな水源の確保が急務となっており、軽舞川表流水と水道未給水区域の井戸水に替わる新たな水源として、1,353 $\text{m}^3/\text{日}$ 、本川の既得水道用水1,050 $\text{m}^3/\text{日}$ 、地下水源545 $\text{m}^3/\text{日}$ 、合計2,948 $\text{m}^3/\text{日}$ の取水を行い、厚真町内へ水道用水を供給します。

（視察キーワード：防災、河川環境等）